

ジャンル / 短歌

Tanka (tanka poem)



稲葉 京子

INABA Kyoko

代表作

- 『ガラスの檻』(1961 年)
- 『柊の門』(1975 年)
- 『槐の傘』(1981 年)
- 『葛原妙子 鑑賞・現代短歌』(1992 年)
- 『宴 稲葉京子歌集』(2002 年)
- 『椿の館 稲葉京子歌集』(2005 年)
- 『花あるやうに 稲葉京子歌集』(2006 年)

ほか多数

活動略歴

- 1933 年 愛知県江南市に生まれる。県立尾北高等学校卒。小学校教員となるが体調不良により退職。この頃童話を書くようになり与田準一の紹介で同人誌「童話」に入会。
- 1957 年 『婦人朝日』に投歌。選者の大野誠夫の薦めで「砂廊」(のち「作風」)に入会。同年、「名古屋短歌会 (のち中部短歌会)」にも入会。
- 1960 年 「小さき宴」で第 6 回角川短歌賞受賞。
- 1980 年 中部短歌会では選者をつとめるようになり、主幹になっていた春日井建とともに後進の指導にあたるようになる。
- 1981 年 『槐の傘』で第 6 回現代短歌女流賞受賞。
- 1990 年 「白蜩」で第 26 回短歌研究賞受賞。
- 2005 年 『椿の館』を短歌研究社より刊行。
- 2006 年 『椿の館』で第 21 回詩歌文学館賞と第 4 回前川佐美雄賞受賞。
- 2016 年 没。

参考／「確信への迫り方#一石川不二子と稲葉京子の場合」
大西民子・著 (1990 年) さいたま市立大宮図書館収蔵
中部短歌会ウェブサイト <http://www.tanka.org/>

INABA Kyoko (1933– 2016/ Tanka Poets)

Born in Konan City, Aichi Prefecture, she first wrote children's stories.

Later, she submitted tanka to a magazine, which caught the attention of the judges and led to her joining a tanka society.

She also joined a tanka society run by KASUGAI Ken and became active there.

She won numerous tanka awards.

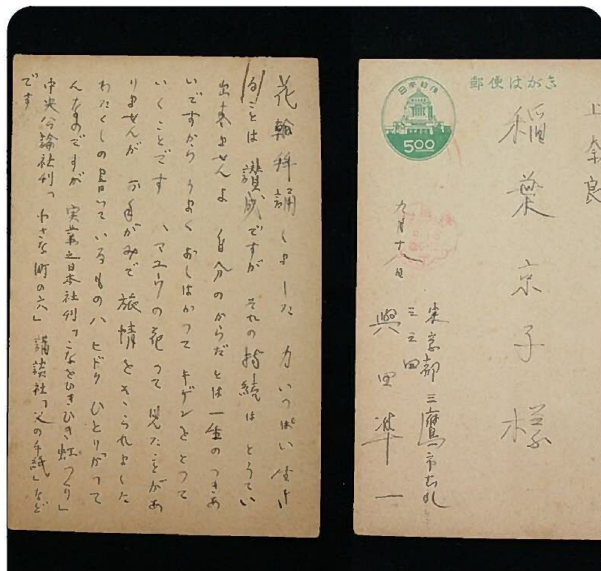
ジャンル / 短歌

Tanka (tanka poem)

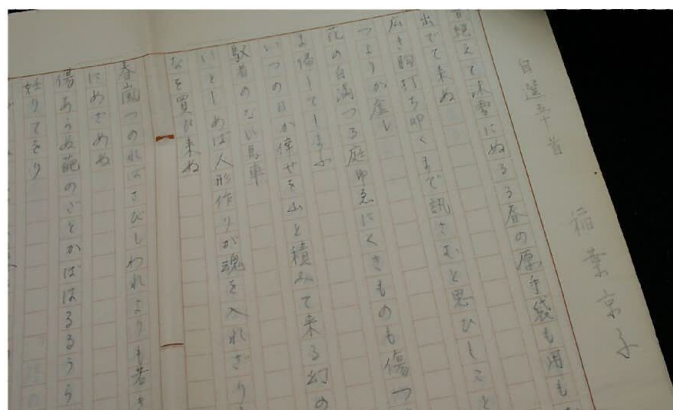
名古屋市収蔵の資料

／稲葉京子

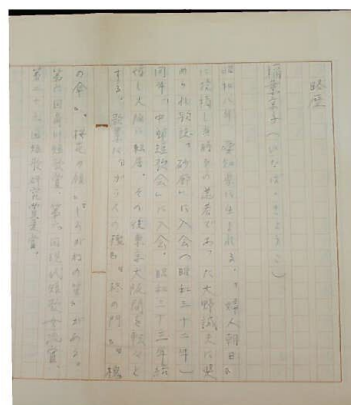
(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to INABA Kyoko in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.

←児童文学者・詩人の与田（與田）準一からの葉書。主宰する童話同人誌『童話』に稲葉氏は童話を掲載した。体調が優れず教師を辞めた後から作話を始めた稲葉氏へ励ましの内容。与田準一とは、第1回児童文化賞受賞者。日本児童文学者協会の第6代会長、サンケイ児童出版文化賞や野間児童文芸賞を受賞しており、門下にはまど・みちおやあまんきみこなど。



↑「自選50首」とある。
「音絶えて沫雪にぬるる春の原手袋も用もなく出でて来ぬ」
「いつの日か倅を山と積みて来る幻の馬車は駈者のない馬車」
「いとしめば人形作りが魂を入れざりし春のひなを買ひ来ぬ」は第1歌集『ガラスの檻』（1961年/砂子屋書房）に収録。原稿状態も新しいことから、『ガラスの檻 第1歌集文庫』（2013年/現代短歌社）用書き直したものと思われる。



↑稲葉氏本人による「略歴」（直筆）。はじめに童話を書いていたことには触れられていない。次ページから（左）の自選短歌が綴られている。

上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[文化のみち二葉館](#)までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。